

WIDE RANGE DODGEBEE COMPETITION

第4回
広域ドッジビーコンペティション
東海道大会2015

実施報告書

平成27年3月16日

日本ドッジビー協会



目次

1. 大会概要	3
2. 参加チームと参加者数	4
3. 競技方法	5
4. 全体タイムスケジュール	5
5. 最終成績	6
6. 参加賞 副賞	7
7. 講評	8
8. メディア掲載	11
別紙：対戦表	11

1. 大会概要

名 称	第4回 広域ドッジビーコンペティション 東海道大会2015
日 時	平成27年3月1日 日曜日 08:45~16:00
会 場	浜松アリーナ (静岡県浜松市東区和田町 808-1)
主 催	日本ドッジビー協会
後 援	静岡県 / 静岡県教育委員会 浜松市 / 浜松市教育委員会 社) 全国子ども会連合会 静岡新聞社 神奈川県フライングディスク協会
主 管	静岡県フライングディスク協会
協 力	愛知県フライングディスク協会
協 賛	文化シャッター株式会社 株式会社クラブジュニア 日本テトラパック株式会社 株式会社ランドウェル 株式会社ヒーロー
種 目	ディスクドッジ、ゴールドッジ、ドッジディスタンス 3種目 (ドッジディスタンスは記録会)
部 門	ディスクドッジ競技 (小学生部門、一般部門、チャレンジド部門) ゴールドッジ競技 (一般部門) ドッジディスタンス競技 (記録会)

2. 参加チームと参加者数

部門	No	都府県	チーム名称	エリア	人数	大人	子ども
小学生	1	東京招待	三日ファイターズ	荒川区	13	×	13
	2	東京招待	国領☆ハッチ	調布市	14	×	14
	3	東京都	お茶小 ベガシス	文京区	13	×	13
	4	東京都	ウエストシックス	荒川区	16	×	16
	5	東京都	NDCそげキング	足立区	15	×	15
	6	東京都	M. D. C	武蔵野市	17	×	17
	7	愛知招待	GDT. A	犬山市	14	×	14
	8	愛知招待	GDT. B	犬山市	16	×	16
	9	愛知県	AXTOS PHOENIX Jr.	名古屋市	16	×	16
	10	愛知県	新知ファンタグレーブ	知多市	11	×	11
	11	愛知県	Fire Jr. 1	稲沢市	13	×	13
	12	愛知県	Fire Jr. 2	稲沢市	12	×	12
	13	愛知県	苗代ヴィクトリーZ	名古屋市	12	×	12
	14	愛知県	苗代フリッパーズ	名古屋市	13	×	13
	15	岐阜県	CAT多治見	多治見市	14	×	14
	16	岐阜県	CAT多治見リトルスター	多治見市	14	×	14
					223	0	223
DiscDodge 一般	1	東京招待	M. D. C	武蔵野市	13	8	5
	2	東京都	NDCベックマン	足立区	11	10	1
	3	東京都	CHUMSディスク部	渋谷区	11	11	0
	4	愛知招待	ASO 月組	名古屋市	12	11	1
	5	愛知県	守東ASO	名古屋市	11	8	3
	6	愛知県	ASO - dream	名古屋市	11	9	2
	7	愛知県(障)	愛知県立半田特別支援学校桃花校舎A	大府市	11	11	0
	8	愛知県	O. GDT	犬山市	10	8	2
	9	愛知県	新知ファンタジスタ	知多市	10	9	1
	10	愛知県	SBE Fire 1	稲沢市	9	5	4
	11	愛知県	SBE Fire 2	稲沢市	10	10	0
	12	大阪府	チキン南蛮	摂津市	12	12	0
	13	静岡県	TAC	富士市	11	7	4
	14	岐阜県	CAT多治見もののふ	多治見市	11	6	5
					153	125	28
チャレンジド (障がい者)	1	愛知県(障)	愛知県立半田特別支援学校桃花校舎B	大府市	13	13	0
	2	愛知県(障)	HIGASHI 1の4 クラブ	一宮市	16	15	1
	3	静岡県(障特)	あそしえ・あぐり	浜松市	11	11	0
					40	39	1
GoalDodge ゴールドッチ	1	愛知県	AXTOS PHOENIX	名古屋市	9	6	3
	2	愛知県	MPS	高浜市	11	11	0
	3	静岡県	TAC	富士市	16	13	3
					36	30	6
選手総計					452	194	258
スタッフ					24		
観客					350		
総合計					826		

3. 競技方法

ディスクドッジ競技（小学生部門、一般部門、チャレンジ部門）

日本ドッジビー協会 公式ルールにて

小学生部門、チャレンジ部門 13名、一般部門 10名でゲームを行います。

試合時間 1試合3分の前・後半（合計6分）

予選 リーグ戦（勝点制・引き分けあり）

決勝 予選リーグ上位チームによるトーナメント戦

※チャレンジ部門は、リーグ2回戦制（勝点制・引き分けあり）

ゴールドドッジ競技（一般部門）

日本ドッジビー協会 公式ルールにて

5名でゲームを行います。

試合時間 1試合7分の前・後半（合計14分）

リーグ2回戦制（勝点制・引き分けあり）

ドッジディスタンス競技（記録会）

参加各チームより選抜したメンバーによる記録会

4. 全体タイムスケジュール

08:45 ～ 09:20 選手受付

09:30 ～ 09:50 開会式

10:00 ～ 15:30 試合（予選・決勝）

15:30 ～ 16:00 閉会式

5. 最終成績

ディスクドッチ 小学生部門	
優勝	三日ファイターズ
2位	GDT. A
3位	苗代ヴィクトリーZ
ディスクドッチ 一般部門	
優勝	CAT多治見もののふ
2位	チキン南蛮
3位	新知ファンタジスタ
ディスクドッチ チャレンジ部門	
優勝	愛知県立半田 特別支援学校 桃花校舎 B
2位	HIGASHI 1の4 クラブ
3位	あそしえ・あぐり
ゴールドドッチ 一般部門	
優勝	AXTOS PHOENIX
2位	MPS
3位	TAC

※詳細結果は、別紙対戦表を参照。

6. 参加賞 副賞

参加賞

日本テトラパック株式会社 協賛品

エコドッジビー270



副賞

文化シャッター株式会社 協賛品

エコドッジビー270



株式会社ランドウェル 協賛品

ドッジビー235 CHUMS モデル



BuzzBullets 応援タオル



7. 講評

2015年3月1日（日）、浜松アリーナ（静岡県浜松市）にて、第4回広域ドッジビーコンペティション東海道大会2015が開催されました。



本大会は、かつてドッジビー全国大会が開催された愛知県と、一昨年全国体でドッジビーが2会場で採用された東京都の2大拠点の間である浜松市で開催され、36チーム452名の選手が参加し、保護者観客含め826名の方が、ここ浜松アリーナに集まりました。

また、本大会には東西からディスクドッジ競技の小学生部門4チーム、一般部門2チームを特別招待しました。

東西トップチーム同士の対戦に注目が集まる大会となりました。



大会当日は、あいにくの大雨でしたが、朝早くから続々と各チームバスが到着。バスが10台くらいずらりと並んだ光景を見て、選手の皆さんのご参加に感謝すると共に、成功させるぞと気持ちを新たにしました。

08:45より予定通り受付開始、待っていた各チーム代表者が一気に受付開始し

ました。会場設営を前日から準備出来たことも功を奏し、09:30より無事開会式を行い、10:00より、いよいよ試合が始まりました。



ディスクドッジ競技は、予想通り「フォアハンド（サイド）スローの東海対、バックハンドスローの関東」という構図になりました。特に小学生部門においては、その傾向が顕著に出て、とても見応えがありま



した。

東海チームが、外野のサイドチェンジからの素早いサイドスローを武器にしているに対し、関東チームは、外野での複数のパス回しからの力強いバックハンドスローという王道の攻めを展開。共通しているのは、外野の使い方が非常に上手だったことです。

また、女子選手の活躍が目覚ましく、目が覚めるようなキャッチや会心のスローは、会場を沸かせました。

今回、DBJA 主催大会では初めて、チャレンジド部門が成立しました。試合進行においては、各チームの介助者の助けを頂きながら、進行が出来ました。

改善点やルール整備など、まだ課題はありますが、選手の皆さんのはつらつとしたプレ

ー、そして嬉しい顔、悔しい顔、試合後の爽やかな顔を沢山見ることが出来、チャレンジド部門を成立出来て本当によかったと感じています。

ドッジビークラブの立ち上げなど、嬉しい声も聞こえてきています。協会としては、是非チャレンジド部門の整備を、積極的に進めて行きたいと思います。

ディスクドッジ競技の決勝戦。小学生部門決勝戦は、関東対東海の対戦となりました。三日ファイターズ（東京都）対、GDT.A（愛知県）は、前半お互い譲らず拮抗した試合展開でしたが、後半最後流れをつかんだ三日ファイターズが一気に攻め、優勝を収めました。

一般部門は、CAT多治見もののふ（岐阜県）が、チャレンジド部門は、愛知県立半田

特別支援学校桃花校舎B（愛知県）が、それぞれ優勝を収めました。



ゴールドドッジ部門は、アルティメット経験者チームと未経験者チームがそれぞれエントリーされましたが、優勝は AXTOS PHOENIX というアルティメット未経験者のチームが収めました。

AXTOS PHOENIX は、前回大会にも参加しており、その後週 1 回程度の練習をして、相当上達をしたのだと思います。特にディフェンスが非常によかったのと、ドッジビー特有の軌道を生かしたフォアハンドスローのシュートが決め手でした。



運営面においては、今回アップできる環境を用意できたことは良かったと思います。前日入りしているチーム向けに、市内の小学校体育館を提供して頂き、3 チームが利用しました。また、当日はサブアリーナをアップ会場として活用出来ました。毎回実現すると限らないのですが、出来る限り今後も考えていきたいと思っています。



審判については、フォアハンドスローが多い場合、スロー角度のジャッジが増えることもあり、微妙な判定も見られました。今後、ルール改正や、審判員増員を、喫緊の課題として対応していきたいと思っています。

また、今大会では、協賛様から、たくさんの副賞を頂きました。参加者に非常に喜んでいただきました。

最後に、多くのご協力を賜った関係各位に、心より御礼を申し上げ、大会の報告といたします。ありがとうございました。

8. メディア掲載

静岡新聞（平成27年3月4日付）

静岡新聞 平成27年(2015年)3月4日(水曜日)

ディスクを使用
ドッチビー熱戦

浜松で大会

日本ドッチビー協会は、このほど、「第4回 広域ドッチビーコンペティション 東海道大会 2015」（静岡新聞社・静岡放送後援）を、浜松市東区の浜松アリーナで開いた。県内や東京、愛知などの小学生から大人までの452人計36チームが熱戦を繰り広げた。ドッチビーはボールの代わりに、柔らかいフライイングディスクを使用した安全性が高い競技。大会は、小学生と一般、障害者対象の3部門が4ブロックずつに分かれて試合を行った。参加者が内外野間で素早くディスクを回し、一瞬の隙を突いて相手にディスクをぶつける、会場からは大きな歓声が上がった。



素早くディスクを回す参加者
—浜松市東区の浜松アリーナ

別紙：対戦表